



和歌山県御坊市との パートナーシティ協定締結

御坊市は、本市と紀伊水道を挟んで対岸に位置し、海・山・川などの豊かな自然や地形はまさにうり二つで、地質学的にも九州から四国を縦断し紀伊半島へと続く四万十帯の線上に一致します。かつては地続きだったかもしれない伊島と日ノ御崎までの距離はわずか22キロ、海上交通が主流だった時代には多くの文化や人的交流がなされてきました。近年では、共に沿岸部に火力発電所や工業団地を有し、徳島県南部、和歌山県中部の中核都市として、それぞれ発展してきました。

また、橘港や日高港の重要港湾、阿南高専と和歌山高専など、ほかにも多くの共通点があり、さらに本市同様、人口減少問題や地域活性化などの共通課題を抱え、南海トラフ巨大地震では同時被災が懸念されています。

「阿南市輝く子どもの子育て応援に係る日亜化学工業基金」の創設

平成26年8月頃からお話をいただいておりますが、この度、日亜化学工業株式会社様から、働く女性の子育て支援等を目的とした、本市が設置する就学前教育・保育施設等の事業および運営の充実に必要な資金として、多額のご寄附を頂くこととなりました。

国におきましては、平成24年8月、子ども・子育てをめぐるさまざまな課題を解決するために、「子ども・子育て支援法」が制定され、この法律と関連する法律に基づいて、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく、「子ども・子育て支援新制度」を平成27年4月から本格スタートする予定です。

国は、この新制度の実施のため、消費税の増取分から、毎年7千億円程度を充てる予定で、貴重な財源を「子ども・子育て支援」のために効果的に活用することとなります。

また、徳島県でも、「徳島県少子化対策緊急強化基金」を創設し、具体的な取組案として、若者の自立への支援、結婚・妊娠・出産・子育ての支援、子育て家庭を支える環境づくりの推進に努めると伺っています。

こうした国や県の動きを念頭に、本市におきましても、今後の人口構造の変化に対応し、ワーク・ライフ・バラ

12月定例市議会 市長所信

12月議会が12月5日から22日までの18日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題につきまして、市長から所信が表明されます。今議会で表明されました主な内容については、次のとおりです。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。また、後日作成する市議会会議録は市立図書館等で閲覧することができます。

なる発展につなげようとする新たな発想の都市連携であります。パートナーシティとは、永続的かつ包括的な分野での交流をめざす「姉妹都市」とは違い、特定の分野や目的に限定した交流を意味し、両市が県境・海峡を越えてパートナーとなり、互いの共通点や特性を最大限生かして、戦略的な防災対策や地域振興に取り組んでいくことを宣言するものです。

平成26年11月17日、柏木御坊市長にご来市いただき、市役所で協定の調印式を執り行いました。

協定に基づく今後の取組としましては、地震・津波対策の調査・研究、イベントやスポーツ大会での交流、地域振興についての協議などを予定しています。

本市の「活竹祭」や御坊市の「宮子姫みなどフェスタ」といったイベントでの相互交流は、既に昨年から行っておりますが、その他の分野については平成27年4月から取り組んでまいりたいと考えています。

救急医療情報キットの配布 事業

救急医療情報キットは、高齢者等の救急救命活動を迅速かつ適切に行うためのもので、専用の用紙に緊急連絡先、かかりつけの医療機関名、血液型、持病名、服用薬などの情報を記入し、専用の容器に入れて冷蔵庫で保管することで、緊急通報で駆けつけた救急隊員が記載された情報を活用し、適切な応急処置や搬送ができるようにするものです。

現在、65歳以上のひとり暮らしの方、65歳以上の高齢者のみの世帯の方および災害時要援護者に対し、平成27年1月から配布できるよう準備を進めているところであり、本事業により、市民の皆さまの安全で安心な暮らしの実現につなげてまいりたいと考えています。

防災対策 津波避難ビルの指定

「NTT阿南ビル」周辺の自主防災会からの要望を受け、去る11月10日、西日本電信電話株式会社徳島支店との間において、同社が所有する「NTT阿南ビル」を津波からの一時避難施設として使用できる協定を締結しました。

協定の内容は、地震で津波が発生、または発生する恐れがある時、周辺住民に一時避難施設として開放することにより、地域住民の安全を確保しようとするものです。

徳島県が公表した基準水位では、「NTT阿南ビル」付近は、1・0メートルの浸水が想定されており、鉄筋コンクリート造り4階建ての建物の内の2階以上が避難可能スペースで、屋上、階段等を合わせた収容可能人数は1千人程度となっております。

これにより、本市が指定した津波避難ビルは、94カ所となりました。今後とも、津波避難ビルの指定に向け民間ビルなどに協力を求めてまいりたいと考えています。

ンスの実現と包括的な次世代育成支援の枠組みの構築を推進するため、次世代育成支援行動計画のもと、「子どもとともに輝く阿南」を基本理念に、子育て環境の充実に向けた施策を総合的・計画的に推進しているところです。

今回、日亜化学工業株式会社様からの貴重なご寄附の趣旨を真摯に捉え、「子ども・子育て支援新制度」のもと、子育て支援の量の拡充や質の向上を進め、子育て世代のニーズに対応できる諸事業に有効活用させていただくとともに、その達成状況や進捗、結果などを検証・分析し、より良い子育て施策の推進を図ってまいりたいと考えています。

新庁舎建設工事

12月末には、第一期工事である高層部が完成します。

平成27年1月中旬に諸検査を完了し、月末には引渡となる見込みで、2月前半には机・いす等の什器搬入を行い、その後、2月後半から3月にかけて新庁舎への引越しを実施する予定です。

引越しは、平日業務に重ならない夜間や土曜日・日曜日を中心に実施し、引越しを終えた部署から段階的に新庁舎での業務を開始することとしており、引越しの日程や各部署の配置につきましましては、今後、広報等にて周知をしてまいりたいと考えています。

高層部完成後も低層部の建設工事が

『阿南市の先覚者たち』 (第二集)の発刊

「本市の発展に大きく貢献された先覚者の業績を顕彰し、後世に伝え、ふるさとに誇りを持つてもらいたい」。そんな関係者の熱い思いが実り、阿南市文化協会創立20周年記念事業として発刊された冊子『阿南市の先覚者たち』ですが、このたび第二集が発刊されました。

第一集では、ハンセン病と闘いながら創作を続け、川端康成に才能を見出されて名作『いのちの初夜』を生み出した作家、北條民雄氏を含む13人の先覚者が紹介されました。

特に、北條民雄の実名を初めて公表したことは大きな反響を呼び、去る9月には、民雄の生涯を描いた『火花』の著者・高山文彦さんの講演会を文化会館において開催し、市民ら約200人が熱心に耳を傾けました。

また、WHOハンセン病抑制圧特別大使、日本政府ハンセン病人権啓発大使でもある日本財団の笹川陽平会長が北條民雄のことを知り、ご本人から私に電話をいただきました。日本財団は、平成27年1月に、ハンセン病と差別の問題について世界に訴える「ハンセン

病に対するステイグマ（社会的烙印）と差別をなくすためのグローバル・アピール」を開催します。そのサイドイベントとして、都内で高山文彦さんの講演会と北條民雄のパネル展示を行っていただけることになり、その会場で『阿南市の先覚者たち』の紹介もさせていただきます。

さらに、3月には阿南市文化会館で、川端康成との往復書簡による2人の魂のやりとりを時系列で紹介する「北條民雄文学特別展」を開催する予定です。

第二集で顕彰する先覚者14人は、阿南市名誉市民である紅露みつ、澤田 紋、小川信雄の3氏をはじめ、現代の本市の発展に大きく貢献された身近な人物が多く含まれているのが特徴です。

本書には、大きな夢を抱いてその実現のために努力する先覚者の姿や軌跡が見事に描かれており、現在の若い人たちの生きる支えにしてほしいという編集委員の願いが込められています。

発刊に携わっていただきました文化協会の皆さま方のご尽力に深い感謝を覚え、感謝の念に堪えません。

『阿南市の先覚者たち』は、小中学校にも配付されており、今後は「未来への希望」がある子どもたちのために、教育現場において大いに活用されることを願っています。